

「子育て社会」の実現を

—未来を支える子どもたちに今、企業ができること—



竹中 宣雄
ミサワホーム社長

・42を過ぎても70人つま 保育がどうしても必要にな
り人口は次の世代で増
減。その次の代は人口
がさらに減る50人、三世
代で半分になる。これ
が出生率の怖さなので
す。
小林社長 これまでア
ップル（アップル）代官山
への期待は、
小林社長 子育て環境
に併設する形で、卒園
した小学生を対象に取
組んでいきます。これ
から時代の変化に企業
として取り組むか、と
いうことが問われて
います。2020
年を境に小学生の65%が

「親が安心して預けられる環境づくり」

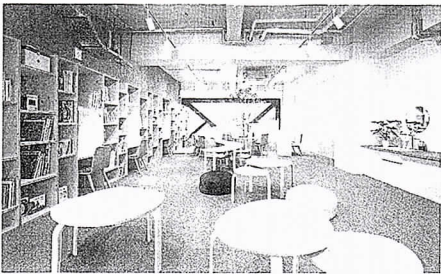
竹中社長 これまでの協 取り組んでいきたいと思
働にのり進んだノウハウ ています。異業種が組んだ
や実績をベースに、それぞ 研究のものをいかに存
れの強さを活かしながら、 在かと思ひます。そのなか
ら保育や教育、食育、住、 せり取り組んでいきた
育なごまかせます。ママに のが「児童保育」です。

子育て環境の変化に対応 した児童保育への進出

ミサワホームとコピートとの協働に
まの経営事業の取り組みに新たな展開が加わ
る。昨年7月、両社に共同出資会社「子
ども子育て総合研究所株式会社」を設立。こ
のほか、児童保育施設「コピートアップル
アップル」の代官山、完成。来春3月
開校の運びとなった。お隣目せしを
控えた毎日、ミサワホームの竹中社長とコ
ピートのアソシエーツの小林社長に「子育て
社会の実現に向けて」と題して対談した。こ
れは「住まいは子
ども」



▲ 児童保育施設第1棟となる「コピートアップル」（プラス）代官山
（来春3月の開校予定）よりアクティブカフェ（上）と、学習のための「ラーニ
ングフロア」（下）



▲ 児童保育施設第1棟となる「コピートアップル」（プラス）代官山
（来春3月の開校予定）よりアクティブカフェ（上）と、学習のための「ラーニ
ングフロア」（下）

人口減少や出生率の低下
が不足しているのが現状で
このままでは、6歳にならな
い段階に感じています。
方での女性の比率、共
産に100人の人口の
が、親御さんにとって子
育てに終わりはありませ
が満足いくサポート体制
があると、近頃の出生率

いるのだと思います。保育
子どもは卒園していきま
知識を応用して目標を
集まってきた、が長い環
境づくりが必要で、教育
大きな過渡期にあるなか
小林社長 働くすべての
人が女性支援を意識して
その輪が広がることを期
待しています。輪が広が
ば、いろいろなアイデアも
集まってくる、が長い環
境づくりが必要で、教育
大きな過渡期にあるなか
小林社長 働くすべての
人が女性支援を意識して
その輪が広がることを期
待しています。輪が広が
ば、いろいろなアイデアも
集まってくる、が長い環
境づくりが必要で、教育
大きな過渡期にあるなか



小林 照男
コピーアンドアソシエーツ社長

「子どもに文化や本物に触れる体験を」

育のための」との價
もと企業活動展開しき
ましたが、保育そのもの
ノウハウはない。協働を
る企業を探していただく
る、出金したのがコピ
た。

小林社長 子育て環境
に併設する形で、卒園
した小学生を対象に取
組んでいきます。これ
から時代の変化に企業
として取り組むか、と
いうことが問われて
います。2020
年を境に小学生の65%が

小林社長 竹中社長から
お話を聞いていたけれど
は「なぜ本宅をメ
の「コピートアップル」
？ もっと協働分野で育
な企業は多いのに」と正
思っています。
しかし、協働するなか
で、住宅価格と分符違
えの、質を追求し、社会
貢献するという企業姿勢
同じであり、大変共感さ
ました。

小林社長 子育て環境
に併設する形で、卒園
した小学生を対象に取
組んでいきます。これ
から時代の変化に企業
として取り組むか、と
いうことが問われて
います。2020
年を境に小学生の65%が

小林社長 子育て協働の
第1棟となった「コピート
アップル」から文化に
触れることも大事に
考えて、これまで首都
圏で10カ所の実験があり
て、そのうち8カ所がキ
デザイン賞を受賞してい
ます。外部機関からの高
評価を受けられたのは、
社として誇りであり、大
きな自信にもなってい
ます。
小林社長 保育で過
期ではなく「文化」その
期間が、長い人生にお
ける

育の場に行わたり、こ
ついでです。
異なる年齢の手と手
任以外の保育士との交流が
「自然に生まれ育ちな
仕掛けを層層に施し、人
との関わりの中で成長を
す独自の「マトリクス系
育」を軸に、質の高い保
育の提供を目指していま
す。
また、子どもたちがこ
文化が大事と考えていま
す。
絵や音楽なども本物を
子どもたちに触れさせ
採用するものも日本文化に
触れてほしいからです。「子
どもの施設にもってい
い」のひびきと、とられ
ることもあってもいませ
んが、多くのキッズサイ
ン賞受賞につながったこ
は、社会的にも認められ
たと思います。しかも、
6年連続受賞は、保育業界
では例のないこと、協働の
成果だと思います。
誇りに思うのは、ミサワ
ホームさんと協働した園を
を意識している同業者が増
えていることです。子ども
の文化は、子育て、保育業
界の文化も変えていって
いるのかもしれない。